

# McLaren Honda MP4/4

1988 WORLD CHAMPIONSHIP WINNING CAR

14

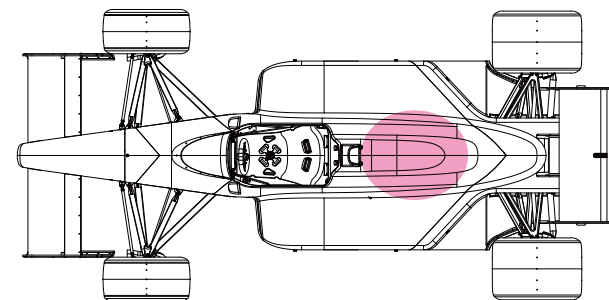
マクラーレン ホンダ  
MP4/4

最速の世界を制した伝説のメモリアルマシンを  
内部機構まで完全再現！



# Mission 51 エンジンを組み立てる③

今号は、まずエンジンブロックにサイドブロック(左下)(右下)を取り付け、次にマニホールドインテーク(下)(左上)(右上)を取り付ける。さらに実車のディテールを再現するために、サイドポンツーン(左)にコネクターを取り付け、ギアボックスにホースCを接続する。



## 今号のパーツ

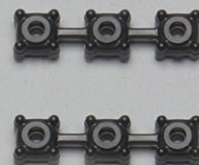
① マニホールドインテーク(左上)



② マニホールドインテーク(右上)



③ マニホールドインテーク(下)×2



④ サイドブロック(右下) ダイキャスト製



⑤ サイドブロック(左下) ダイキャスト製



⑥ ビスL (1.4×8P-M SiL)×3



※ビスは予備1本を含む。

※①～③はHIPS (スチロール樹脂)製

## 今号で使用する道具

- ・プラスドライバー (00番)  
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・瞬間接着剤 ・カッター ・はさみ
- ・カッティングマット ・定規 ・つまようじ
- ・マスキングテープ ・ピンセット

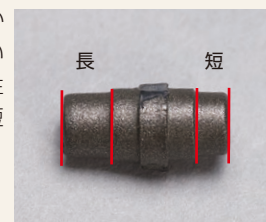
## 用意するもの

- ・ターボチャンバー ※7号で組み立て
- ・サイドポンツーン(左) ※30号で組み立て
- ・ワイヤー A ※44号で使用
- ・ギアボックス ※47号で組み立て
- ・ホースC ※49号で提供
- ・コネクター×1 ※49号で提供のランナーパーツ
- ・エンジンブロック ※50号で組み立て

## ポイント

コネクターの形状について

●コネクターの形状は、端からの長さが左右で異なっているので、取り付ける際には注意が必要だ。今号では、短い方にホースを接続する。



本モデルのエンジンブロックは、組み立てやすさを考慮して実車とは異なるパーツ分割がされているが、ディテールをデフォルメするなどして、実車と比べ違和感のないよう、組み立てた際のエンジン全体の統一された質感にこだわっている。今回提供のパーツでは、サイドブロックにある青色のボルトの塗装をリアルに再現し、アクセントとしている。

◀MP4/4のエンジン左側面下部。

In Focus

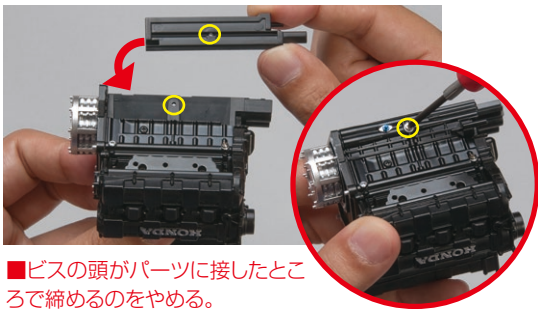


## 1 エンジンブロックにサイドブロック (左下) (右下) を取り付ける

- 50号で組み立てたエンジンブロックを用意する。



- エンジンブロックの左側面下部に⑤サイドブロック (左下) を写真のように合わせ、黄色い丸で示した部分に⑥ビスLを差し、プラスドライバー (00番) で締める。



- ビスの頭がパーツに接したところで締めるのをやめる。

- 同様に、エンジンブロックの右側面下部に④サイドブロック (右下) を合わせ、黄色い丸で示した部分にビスLを差し、プラスドライバー (00番) で締める。



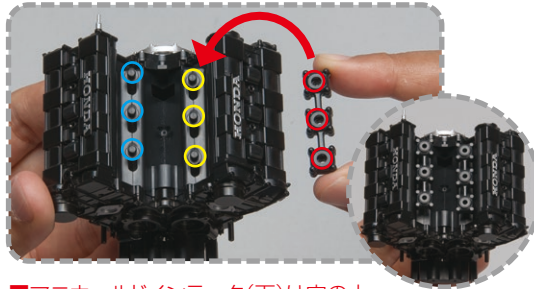
## 2 エンジンブロックにマニホールドインテーク (下) (左上) (右上) を取り付ける

- 7号で組み立てたターボチャンバーを用意する。



### 《仮組み》

③ マニホールドインテーク (下) の赤丸で示した穴を、エンジンブロックに取り付けてあるマニホールドインテークベースの黄色い丸で示した突起に合わせ、接着面を確認する。同様に、もうひとつのマニホールドインテーク (下) も、青丸で示したマニホールドインテークベースの突起に合わせ、接着面を確認する。



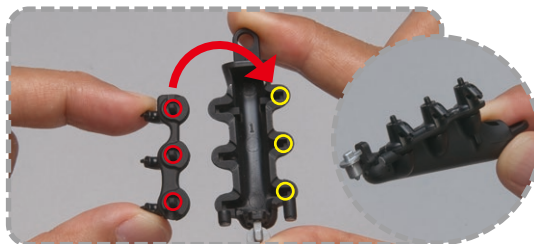
- マニホールドインテーク (下) は穴の大きい面が下になる。

### 《仮組み》

① マニホールドインテーク (左上) と② マニホールドインテーク (右上) の左右を確認する。写真のように並べた際に、赤矢印で示した部分に突起のある方が左となる。



ターボチャンバーの左側面の黄色い丸で示した凹みにマニホールドインテーク (左上) の赤丸で示した突起を組み合わせる。



### 《仮組み》

5センチほどにカットしたマスキングテープを用意し、写真のように仮留めする。

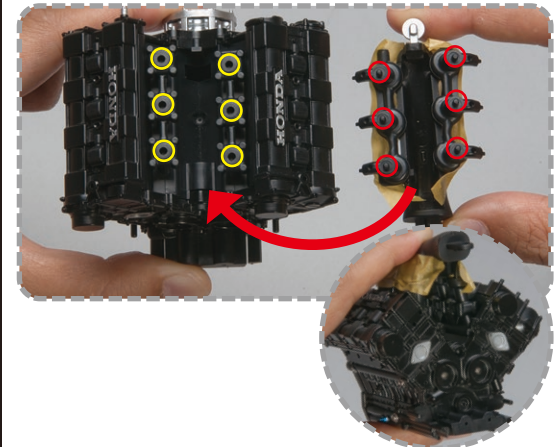


同様に、ターボチャンバーの右側面にマニホールドインテーク (右上) を合わせ、5センチほどにカットしたマスキングテープで写真のように仮留めする。

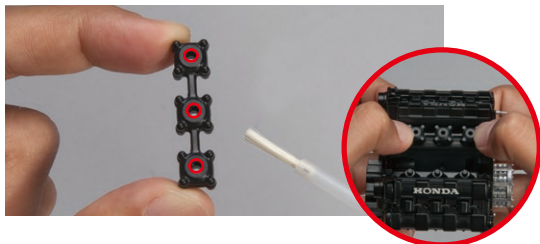


### 《仮組み》

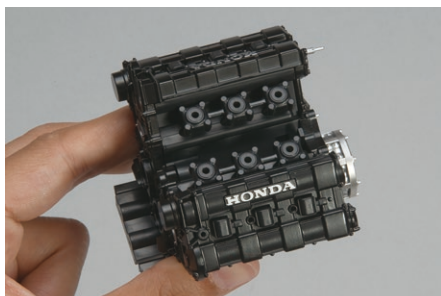
マニホールドインテーク (下) の黄色い丸で示した穴に、マニホールドインテーク (左上) (右上) の赤丸で示した突起を合わせ、接着面を確認する。



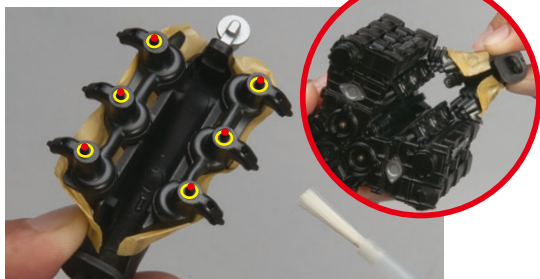
● マニホールドインテーク(下)の赤丸で示した接着面となる穴と穴の縁にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにエンジンブロックに合わせ、接着面全体を意識しながら、2~3分押さえる。



● 同様に、残りのマニホールドインテーク(下)も穴と穴の縁にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにエンジンブロックに合わせ、接着面全体を意識しながら、2~3分押さえる。

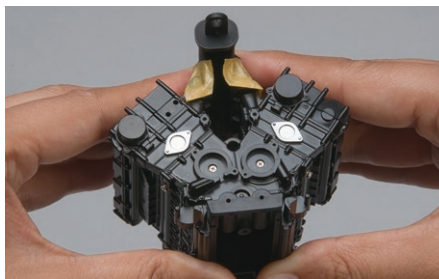


● マニホールドインテーク(左上)(右上)の赤点で示した突起と、黄色い丸で示した突起の付け根にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにエンジンブロックに合わせる。



■ 接着面を合わせる時には、奥から順番に合せていく。

● エンジンブロックとターボチャンバーを挟み込むようにして2~3分押さえる。



● そのまま1時間ほど置き、完全に接着したらマスキングテープをはがし、ターボチャンバーも外しておく。



### 3

## サイドポンツーン(左)にコネクタを取り付ける

● 30号で組み立てたサイドポンツーン(左)と49号で提供されたランナーパーツのコネクタを用意する。



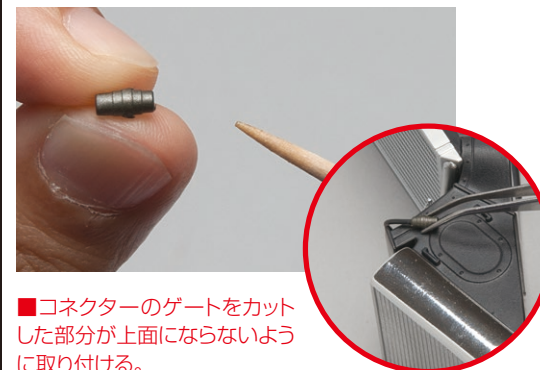
● ランナーパーツを裏返し、赤線で示したようにカッターでカットし、コネクタを1個切り離す。



● コネクタに残ったゲートをカッターで取り除く。パーツが小さくて作業しにくいので、写真のように先端を少しカットしたつまようじをコネクタに差し込んで押さえながらカットする。



● コネクタの端が短い方の穴に、つまようじで瞬間接着剤で少量塗り、サイドポンツーン(左)のバッテリーの先に接続してあるホースAの先端に差し込み、1分ほど押さえる。



■ コネクタのゲートをカットした部分が上面にならないように取り付ける。

● サイドポンツーン(左)にコネクタが取り付けられた。

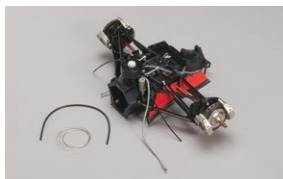




4

## ギアボックスに ホースCを取り付ける

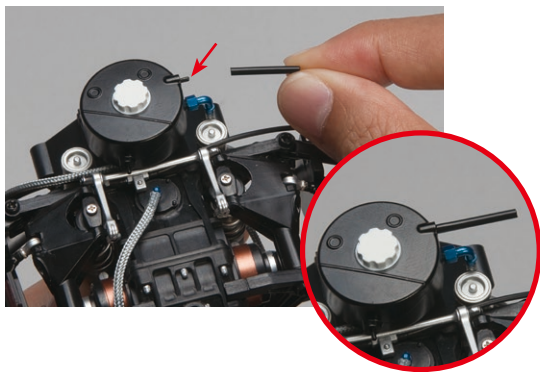
● 47号で組み立てたギアボックスと44号で使用したワイヤー A、49号で提供されたホースCを用意する。



● ホースCを15ミリと105ミリ、ワイヤー Aを85ミリにカッターでカットする。



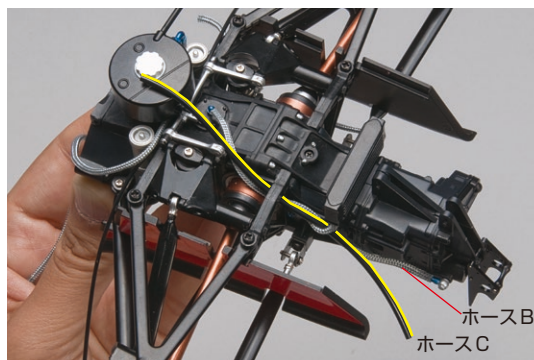
● 15ミリにカットしたホースCをエンジンオイルタンクの右側面にある赤矢印で示した突起に差し込む。



● 105ミリにカットしたホースCに、85ミリにカットしたワイヤー Aを差し込む。



● ワイヤー Aを通したホースCをギアボックスの後方から、ホースBに沿うようにして、黄色い線で示したように差し込んでいく。

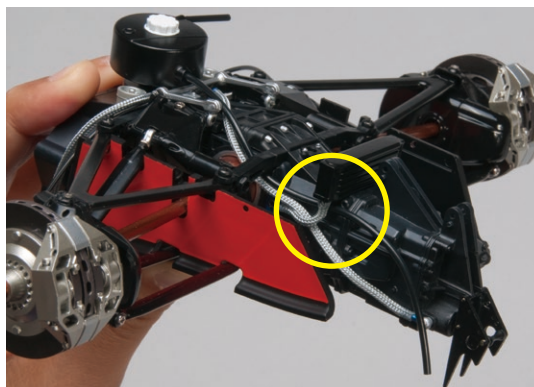


■ ギアボックス後部では、ホースCが下を向くようにする。

● ホースCのギアボックス前方側の端は、エンジンオイルタンク後方の赤矢印で示した突起に差し込む。



● ホースCが写真のようになっていることを確認する。



■ 特に黄色い丸で囲んだ部分に注意する。

● ギアボックス後方に出たホースCの端は、赤丸の写真のように斜めにはさみでカットする。



● ギアボックスにホースCが2カ所に取り付けられた。



### 今号の完成

エンジンブロックにサイドブロック(左下)(右下)、マニホールドインテーク(下)(左上)(右上)を取り付けた。そのほか、サイドポンツーン(左)にコネクターを取り付け、ギアボックスにホースCを接続した。



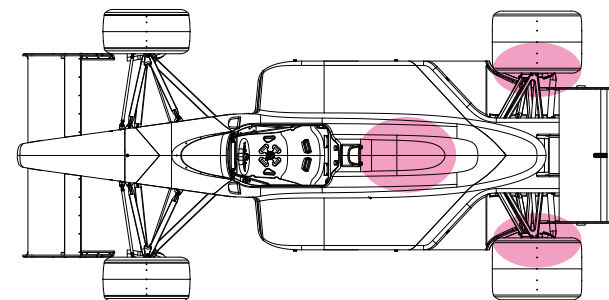
### 保管パーツ

今号で使用したターボチャンバー、ランナーパーツのコネクターとワイヤー Aの残りは、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。



# Mission 52 エンジンを組み立てる④

今号は、まずエンジンブロックにウォーターポンプ(左)(右)を取り付け、次にオイルポンプを装着した後に、エンジンカバーを取り付ける。さらに、ギアボックスを用意して、リアのブレーキキャリパーにブレーキライン(左後)(右後)を取り付け、ブレーキラインTピースに取り付けたホースAを後の号で接続する準備をする。



## 今号のパーツ

① ウォーターポンプ(右)



② ウォーターポンプ(左)



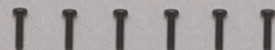
③ オイルポンプ ダイキャスト製



④ エンジンアンダーカバー



⑤ ビスJ (1.4 × 6P-M BK) × 6



⑥ ナットA (M3 BK) × 2



※ビスとナットは各1本予備を含む。

※①②④はHIPS (スチロール樹脂)製

## 今号で使用する道具

- ・ プラスドライバー (00番)  
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・ プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・ 瞬間接着剤
- ・ カッター ・ カuttingマット
- ・ 定規 ・ ピンセット ・ つまようじ

## 用意するもの

- ・ オルタネーター ※7号で組み立て
- ・ オルタネーターベルト ※7号で提供
- ・ ブレーキライン(左後) ※49号で提供
- ・ ブレーキライン(右後) ※49号で提供
- ・ エンジンブロック ※51号で組み立て
- ・ ギアボックス ※51号で組み立て

## ポイント

ウォーターポンプの左右の見分け方

●ウォーターポンプは赤矢印で示した部分に突起が出ているほうが右、突起がないほうが左となる。このパーツは、エンジンブロックの前面に取り付けられるため、見た目の配置と左右表記が異なる。



ウォーターポンプは冷却用の水を、オイルポンプは潤滑のためのオイルを、それぞれエンジン内部に循環させる役割を持つ。本モデルでは、そのディテールを可能な限り再現すると同時に、オイルポンプはダイキャスト製とすることで、実車と同様にエンジンとモノコックを連結する強度を確保している。

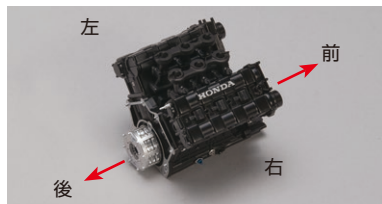
◀MP4/4のウォーターポンプ、オイルポンプ。

In Focus



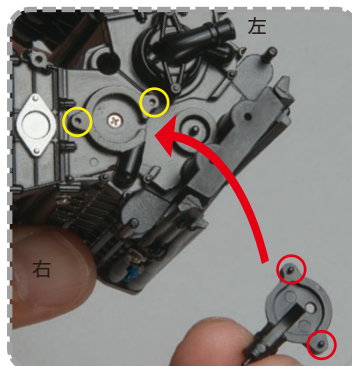
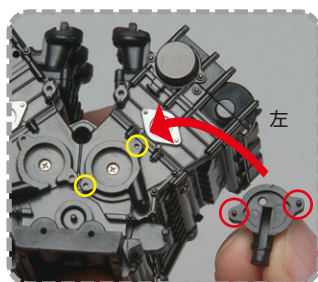
# 1 エンジンブロックにウォーターポンプ(左)(右)を取り付ける

- 51号で組み立てたエンジンブロックを用意する。



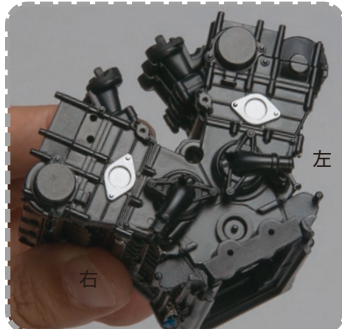
## 《仮組み》

エンジンブロックの黄色い丸で示した穴2つと、②ウォーターポンプ(左)の赤丸で示した突起2つを組み合わせる。

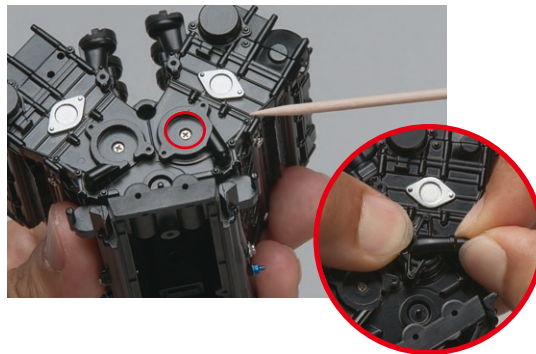


エンジンブロックの黄色い丸で示した穴2つと①ウォーターポンプ(右)の赤丸で示した突起2つを組み合わせる。

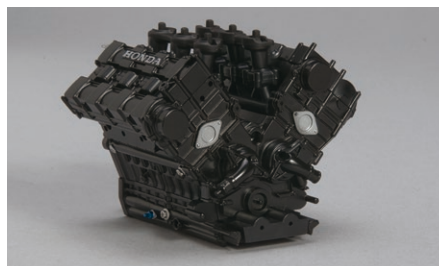
エンジンブロックとウォーターポンプ(左)(右)のそれぞれの接着面を確認する。



- エンジンブロックの赤丸で示した凹みの縁の部分に、つまようじで瞬間接着剤を少量塗り、仮組みしたようにウォーターポンプ(左)を組み合わせ、1分ほど押さえる。

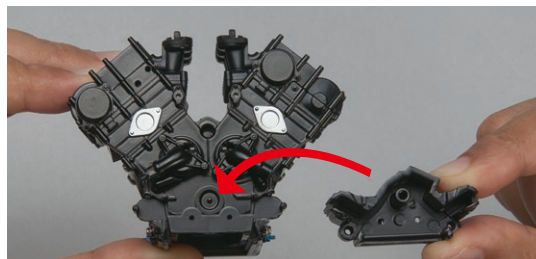


- 同様に、エンジンブロックのもう片方の凹みの縁の部分に、つまようじで瞬間接着剤を少量塗り、仮組みしたようにウォーターポンプ(右)を組み合わせ、1分ほど押さえる。

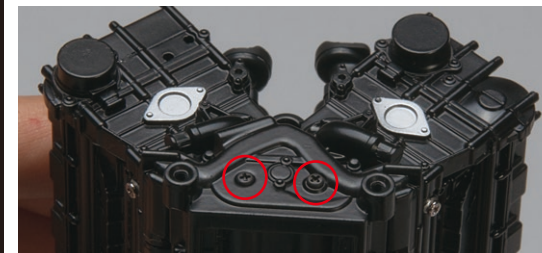


# 2 エンジンブロックにオイルポンプを装着する

- エンジンブロックに③オイルポンプを組み合わせる。



- 赤丸で示した部分にそれぞれ⑤ビスJを差し、プラスドライバー(00番)で締める。左右でビスの収まり方が異なるので注意する。



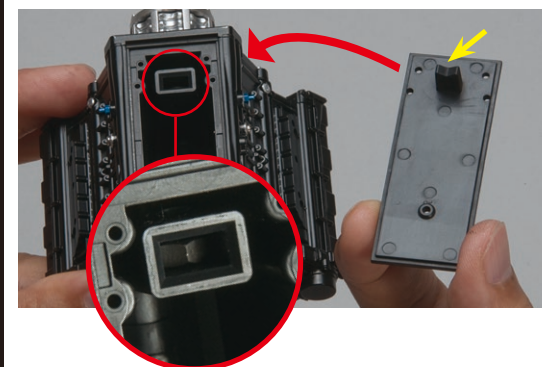
- ビスの頭がパーツに接したら、締めるのをやめる。

# 3 エンジンブロックにエンジンアンダーカバーを取り付ける

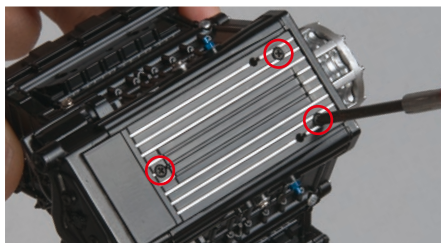
- エンジンブロック底面の赤矢印で示した部分に⑥ナットAをセットする。



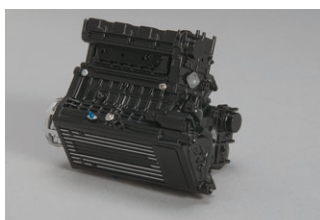
- エンジンブロックに④エンジンアンダーカバーを組み合わせるのを確認する。エンジンアンダーカバーの黄色い矢印で示した部分は、先ほどセットしたナットAに組み合わせたり、ナットAを固定する。



- 赤丸で示した3カ所のビス穴に、それぞれビスJを差し、プラスドライバー（00番）で締める。



- エンジンブロックにエンジンアンダーカバーが取り付けられた。

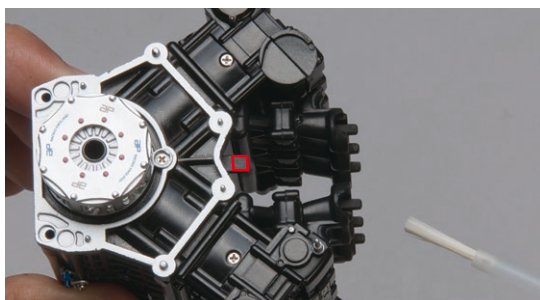


#### 4 エンジンブロックにオルタネーターとオルタネーターベルトを取り付ける

- 7号で組み立てたオルタネーターと提供されたオルタネーターベルトを用意する。



- エンジンブロックの後方上部にある突起の赤枠で示した部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗る。



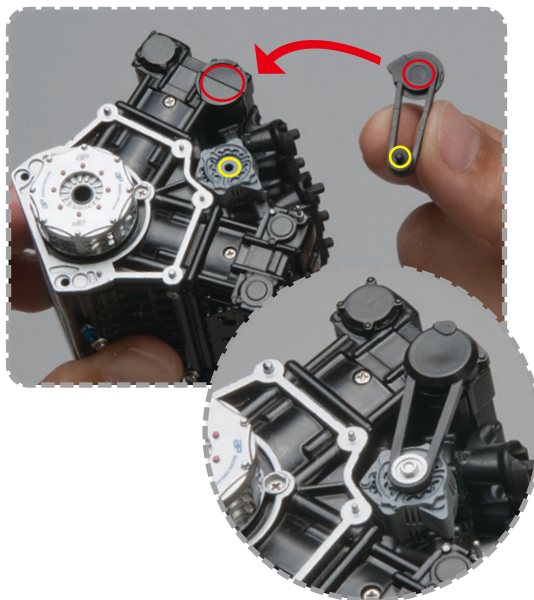
- 接着剤を塗った部分にオルタネーターを奥まで差し込み、接着面が密着するように2~3分押さえる。



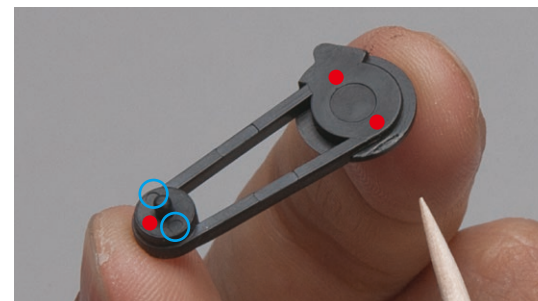
- オルタネーターの差し込み口が接着面に接するように、上から押さえる。

#### 《仮組み》

エンジンブロックの赤丸で示した部分とオルタネーターの黄色い丸で示した穴、オルタネーターベルトの赤丸で示した部分と黄色丸で示した突起を、それぞれ同色を組み合わせて、接着面を確認する。

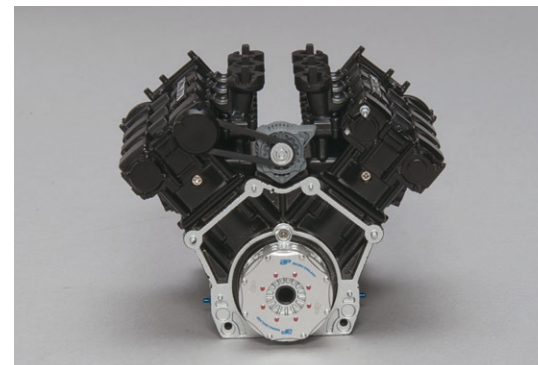


- オルタネーターベルトの裏側、赤点で示した3カ所に、つまようじの先で瞬間接着剤を少量塗り、仮組みしたように合わせ、1分ほど押さえる。



- 青丸で示した丸い凹みは、瞬間接着剤を塗るのを避ける。

- エンジンブロックにオルタネーターとオルタネーターベルトが取り付けられた。



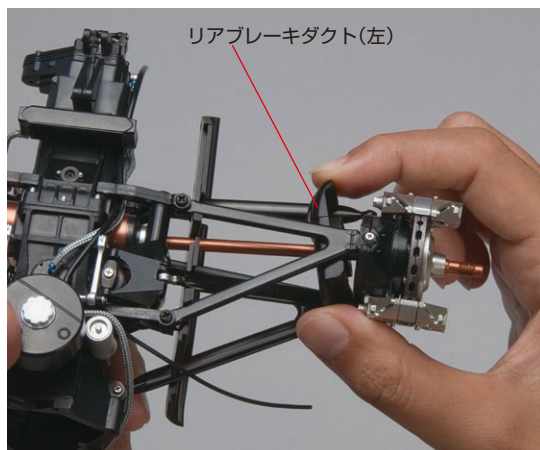
#### 5 ギアボックスにブレーキライン(左後)(右後)を取り付ける

- 51号で組み立てたギアボックスと、49号で提供されたブレーキライン(左後)(右後)を用意する。



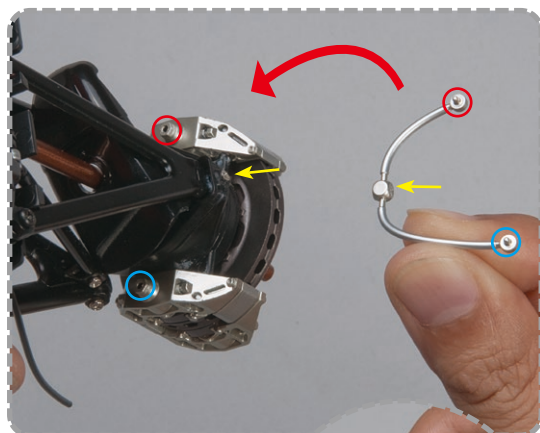


- ギアボックスの左側にあるリアブレーキ(左)に取り付けたリアブレーキダクト(左)を外す。



### 《仮組み》

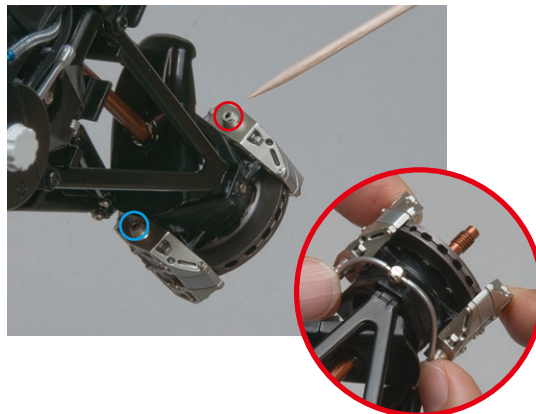
左のリアのブレーキキャリパーの赤丸と青丸で示した穴と、ブレーキライン(左後)の赤丸と青丸で示した突起、それぞれ同色で組み合わせる。



■リアブレーキ(左)の黄色い矢印で示したビス頭と、ブレーキライン(左後)の黄色い矢印で示したホース取り付け部分が重なることを確認する。



- 左のリアのブレーキキャリパーの赤丸と青丸で示した穴に、つまようじの先で瞬間接着剤を少量塗り、仮組みしたようにブレーキライン(左後)を合わせて、1分ほど押さえる。



- 先ほど外したリアブレーキダクト(左)をリアブレーキ(左)にはめる。



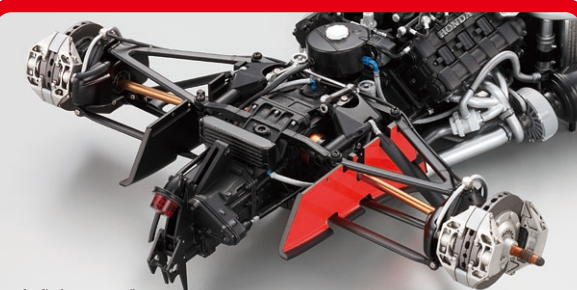
- 同様に、リアブレーキ(右)に取り付けたリアブレーキダクト(右)を外した後に、ブレーキライン(右後)を取り付け、再びリアブレーキダクト(右)をはめる。



- ギアボックスにブレーキライン(左後)(右後)を取り付けた。



### Check

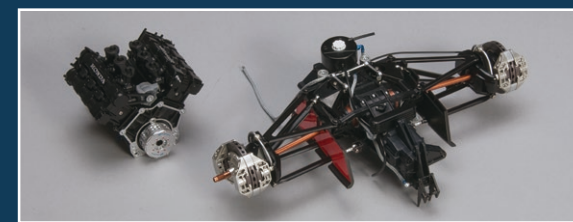


完成時イメージ▲

■後の号で、ブレーキラインTピースに取り付けられたホースAをブレーキライン(左後)(右後)に接続する。

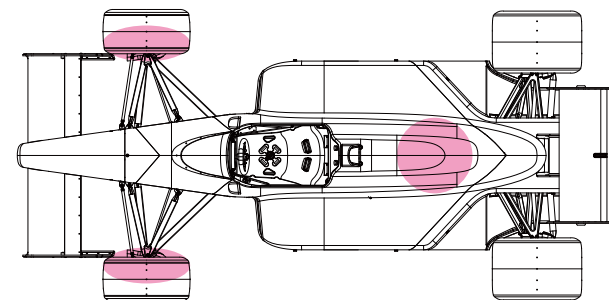
### 今号の完成

エンジンブロックに、ウォーターポンプ(左)(右)とオイルポンプ、エンジンアンダーカバー、オルタネーター、オルタネーターベルトを取り付けたほか、ギアボックスにブレーキライン(左後)(右後)を装着した。



# Mission 53 エンジンを組み立てる⑤

今号は、エンジンブロックにプラグカバー（左）（右）を装着するほか、後の号で取り付けるヘッダータンクを組み立てる。さらに、モノコックを用意して、フロントのブレーキキャリパーに、ホースAを接続したブレーキライン（左前）（右前）をそれぞれ取り付ける。



## 今号のパーツ

① ヘッダータンクA



② ヘッダータンクB



③ ヘッダータンクC



④ ヘッダータンクD



⑤ エンジンマウントプレート(左) ダイキャスト製



⑥ プラグカバー (右)



⑦ プラグカバー (左)



⑧ ビスK (1.4 × 10P-M SiL) × 2



⑨ ビスL (1.4 × 8P-M SiL) × 2



※ビスは各1本予備を含む。

※①～④、⑥・⑦はHIPS（スチロール樹脂）製

## 今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・瞬間接着剤
- ・カッター ・カッティングマット
- ・定規 ・ピンセット ・つまようじ

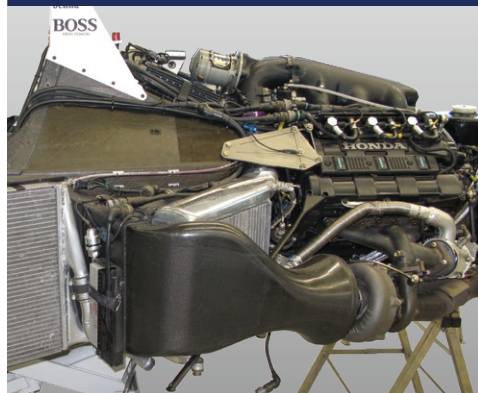
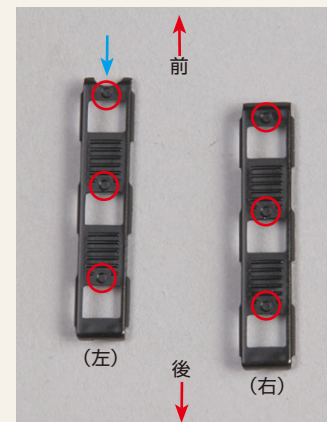
## 用意するもの

- ・モノコック ※31号で組み立て
- ・ホースA ※34号で使用
- ・ブレーキライン(左前)(右前) ※49号で提供
- ・エンジンブロック ※52号で組み立て

## ポイント

プラグカバーの左右と前後の向き

●プラグカバーは、青矢印で示した切り欠きがある方が（左）、ない方が（右）となる。同時に、前後の向きは、突起が2つある面を下にして、赤丸で示した丸い跡が写真のような状態となる。取り付けの際に必要なので確認しておく。



エンジンマウントプレートは、エンジンとモノコックを連結する役割をもっている。MP4/4はフレームを持たないモノコック構造をしており、ギアボックスと連結されたエンジンがエンジンマウントプレート（左右）と、オイルポンプの両側にある取り付けボルトでモノコックに連結されている。本モデルでは、エンジンマウントプレートをダイキャスト製にすることで、強度と質感を実現している。

◀MP4/4のエンジンマウントプレート。

In Focus



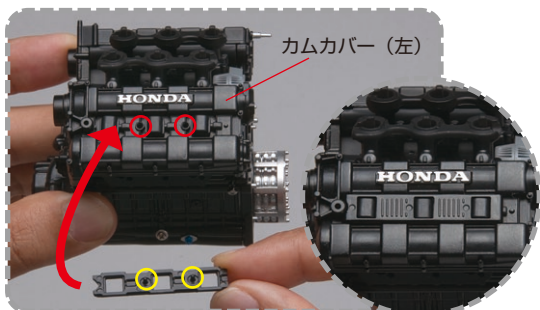
# 1 エンジンブロックにプラグカバー (左) (右) を取り付ける

● 52号で組み立てたエンジンブロックを用意する。



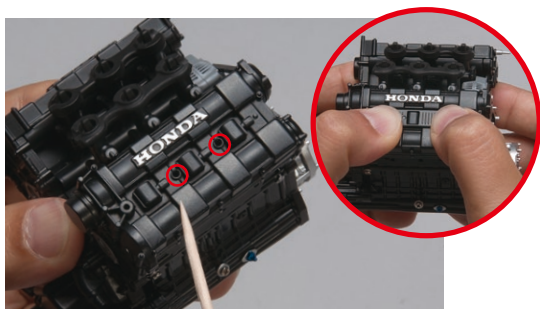
## 《仮組み》

エンジンブロックに取り付けたカムカバー (左) の赤丸で示した穴に、⑦ プラグカバー (左) の黄色い丸で示した突起を写真のように組み合わせ、接着部分を確認する。



■ 仮組みしたプラグカバー (左) が外れにくい場合は、つまようじなどを使用するとよい。

● カムカバー (左) の赤丸で示した2カ所の穴に、つまようじで瞬間接着剤を少量塗り、仮組みしたようにプラグカバー (左) を合わせて、1分ほど押さえる。



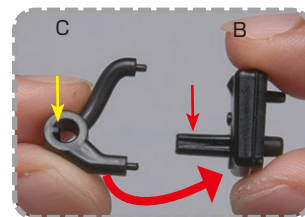
● 同様に、カムカバー (右) の2つの穴に、つまようじで瞬間接着剤を少量塗り、⑥ プラグカバー (右) を合わせて、1分ほど押さえる。



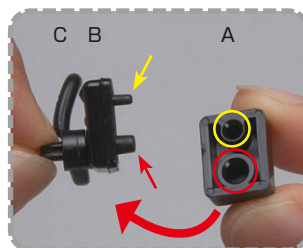
# 2 ヘッダータンクを組み立てる

## 《仮組み》

② ヘッダータンクBの赤矢印で示した溝に、③ ヘッダータンクCの黄色い矢印で示した突起が合うように組み合わせる。

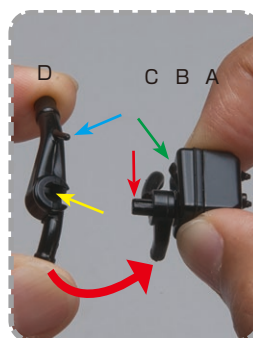


■ ヘッダータンクCの向きに注意。



ヘッダータンクBの黄色と赤の矢印で示した2つの突起を、① ヘッダータンクAの黄色い丸と赤丸の同色の穴にそれぞれ組み合わせる。

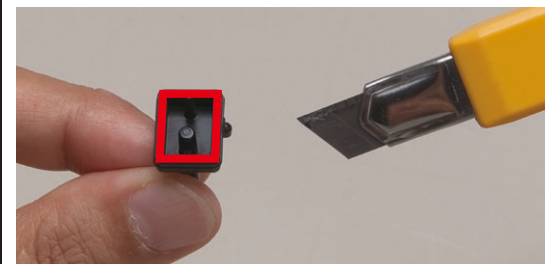
ヘッダータンクAが外れないように押さえながら、ヘッダータンクBの赤矢印で示した溝と④ ヘッダータンクDの黄色い矢印で示した突起、ヘッダータンクBの緑矢印で示した凹みとヘッダータンクDの青矢印で示した突起が合うように組み合わせる。



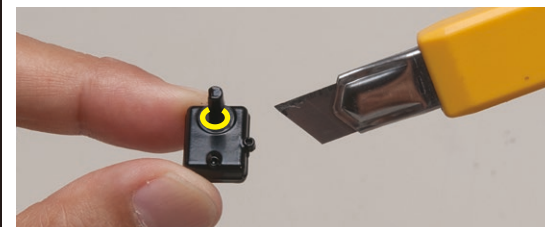
## 《仮組み》

ヘッダータンクABCD、それぞれの接着面を確認する。

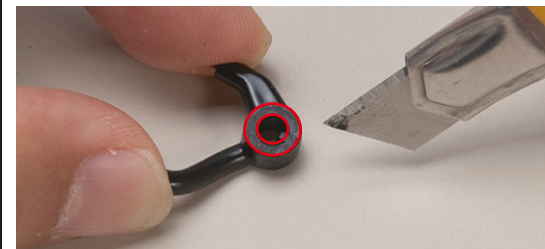
● ヘッダータンクBの赤線で示したヘッダータンクAとの接着面をカッターの刃の裏側ではがす。



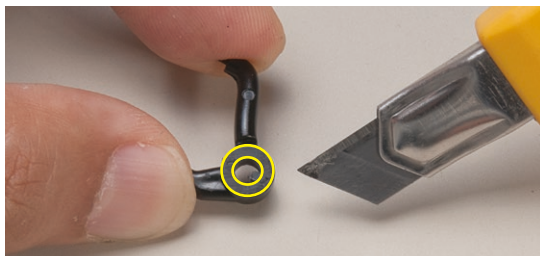
● ヘッダータンクBのヘッダータンクCとの接着面となる黄色い丸で示した突起の根本をカッターの刃の裏側ではがす。



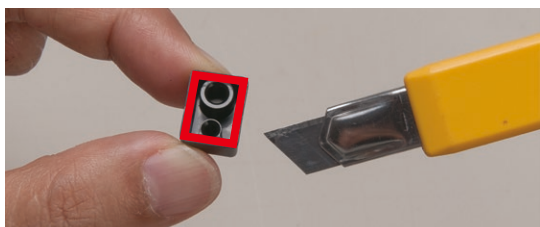
● ヘッダータンクCの赤枠で示したヘッダータンクBとの接着面をカッターの刃の裏側ではがす。



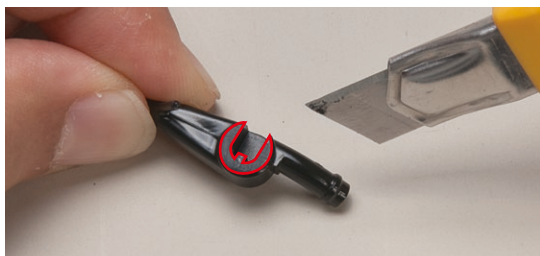
- ヘッダータンクCの反対側、黄色い枠で示したヘッダータンクDとの接着面をカッターの刃の裏側ではがす。



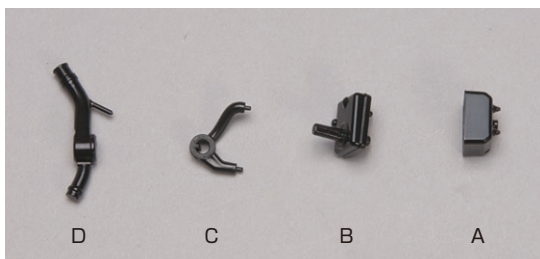
- ヘッダータンクAの赤線で示したヘッダータンクBとの接着面をカッターの刃の裏側ではがす。



- ヘッダータンクDの赤枠で示したヘッダータンクCとの接着面をカッターの刃の裏側ではがす。



- 組み合わさるヘッダータンクABCDの準備ができた。



- ヘッダータンクCのBとの接着面にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにヘッダータンクBに合わせ、2~3分押さえる。



- 赤線で示したように、ヘッダータンクBの側面と、ヘッダータンクCの突起が並行になるように取り付ける。

- ヘッダータンクAのBとの接着面にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたように合わせ、2~3分押さえる。



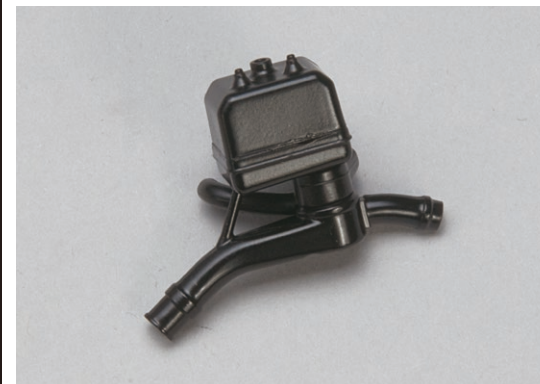
- 接着剤がはみ出さないよう注意する。

- ヘッダータンクDのCとの接着面にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたように合わせ、2~3分押さえる。



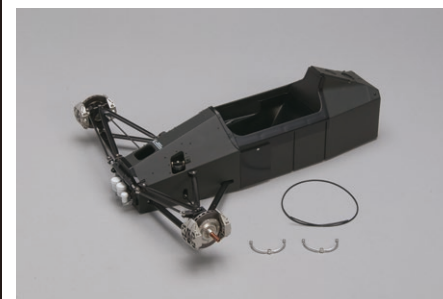
- ヘッダータンクDの赤矢印で示した突起は、ヘッダータンクBの黄色い丸で示した凹みに重なる。

- 完全に接着されるまで、1時間ほど置き、ヘッダータンクが完成した。

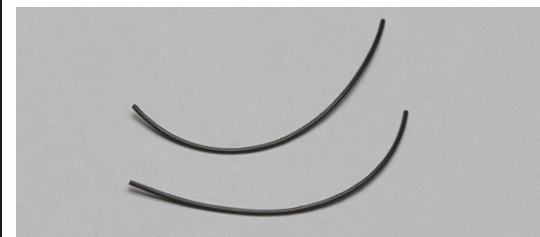


### 3 モノコックにホースAを接続したブレーキライン(左前)(右前)を取り付ける

- 31号で組み立てたモノコック、34号で使用したホースA、49号で提供されたブレーキライン(左前)(右前)を用意する。

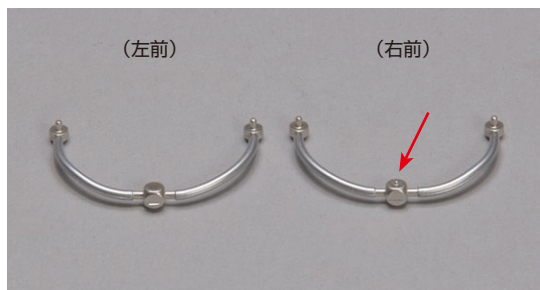


- ホースAを80ミリの長さにカッターでカットする。これを2本用意する。

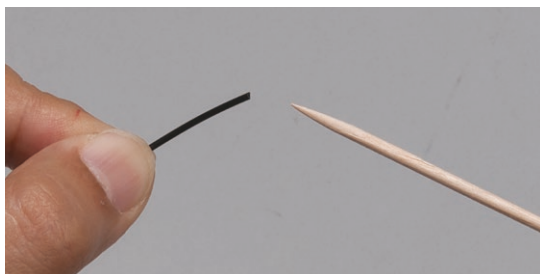




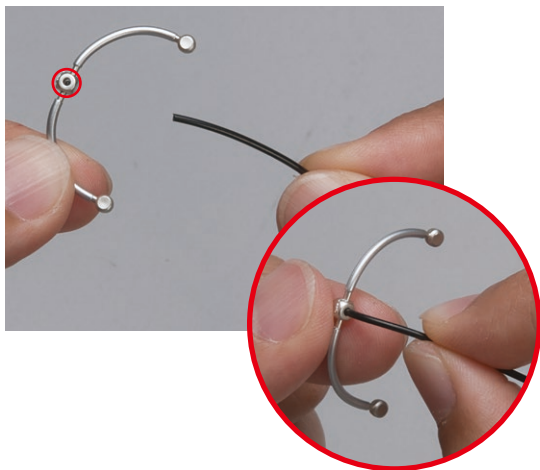
- ブレーキラインは赤矢印で示した部分に突起のある方がブレーキライン(右前)、ない方がブレーキライン(左前)となるので確認しておく。



- 80ミリのホースAの先端に、つまようじで瞬間接着剤を少量塗る。



- ブレーキライン(左前)の赤丸で示した穴に、瞬間接着剤を塗ったホースAを差し込み、1分ほど押さえる。

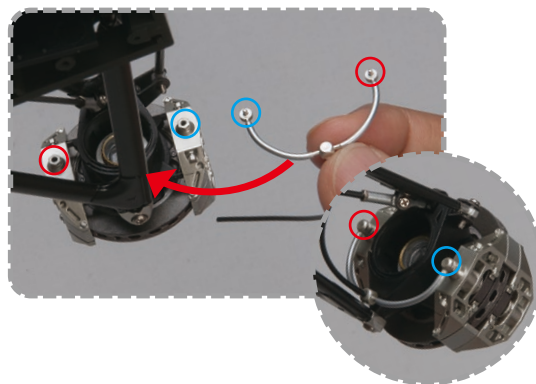


- 同様に、もう1本のホースAの先端に、つまようじで瞬間接着剤を少量塗り、ブレーキライン(右前)の真ん中にある穴に差し込み、1分ほど押さえる。



### 《仮組み》

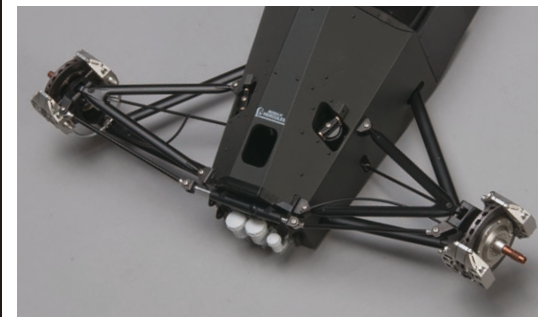
- 左のブレーキキャリパーの赤丸と青丸で示した部分と、ブレーキライン(左前)の赤丸と青丸で示した部分、それぞれ同色で組み合わせるので確認する。



- 左のブレーキキャリパーの赤丸と青丸で示した部分に、つまようじで瞬間接着剤を少量塗り、仮組みしたようにブレーキライン(左前)を合わせて、1分ほど押さえる。

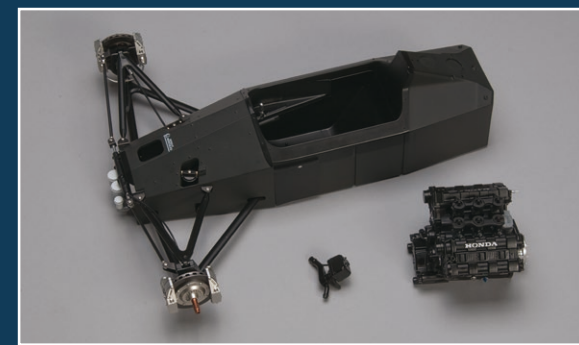


- 同様に、右のブレーキキャリパーにブレーキライン(右前)を接着する。



### 今号の完成

エンジンブロックにプラグカバー(左)(右)を取り付けたほか、ヘッダータンクを組み立てた。さらに、モノコックにホースAを接続したブレーキライン(左前)(右前)を取り付けた。



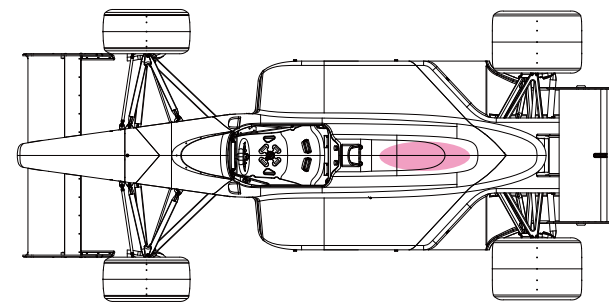
### 保管パーツ

今号で使用しなかった⑤エンジンマウントプレート(左)、⑧ビスK、⑨ビスLは、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。



# Mission 54 エンジンを組み立てる⑥

今号は、まずポップオフバルブを組み立てる。次にエンジンブロックを用意して、スロットルリンク(右)(中)(左)の取り付け位置を確認しながらターボチャンバーに取り付ける。さらにターボチャンバーに、エアチャンバーオーリング、スロットルボディ(上)(下)、ポップオフバルブを装着する。



## 今号のパーツ

① ポップオフバルブ(後)



④ エアチャンバーオーリング



② ポップオフバルブ(中)



⑤ スロットルボディ (上)



③ ポップオフバルブ(前)



⑥ スロットルボディ (下)



⑦ ビスJ (1.4×6P-M BK)×2



⑧ ビスN (1.4×4P-M BK)×2



※ビスは予備1本を含む。

※①～⑥はHIPS (スチロール樹脂)製

## 今号で使用する道具

- ・プラスドライバー (00番)  
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・瞬間接着剤
- ・つまようじ

## 用意するもの

- ・スロットルリンク(右) ※49号で提供
- ・スロットルリンク(中) ※49号で提供
- ・スロットルリンク(左) ※49号で提供
- ・ターボチャンバー ※51号で使用
- ・エンジンブロック ※53号で組み立て

## ポイント

パーツ間の「遊び」について

●ターボチャンバーとスロットルボディの間は、ぴったり組み合わせさせておらず、パーツが左右に少し動く。これは後の号でパイプなどを連結する際に必要な遊びとなっている。



ターボエンジンは、ターボチャージャーにより空気を過給して高出力を生み出すが、過給圧を制限するレース規定により、公式パーツとしてポップオフバルブの装着が義務づけられた。これにより過給圧が規定値を超えると物理的にバルブが解放されて、それ以上の加圧ができない仕組みとなっている。本モデルでは、ポップオフバルブのパーツを3つに分けることで、そのディテールを再現している。

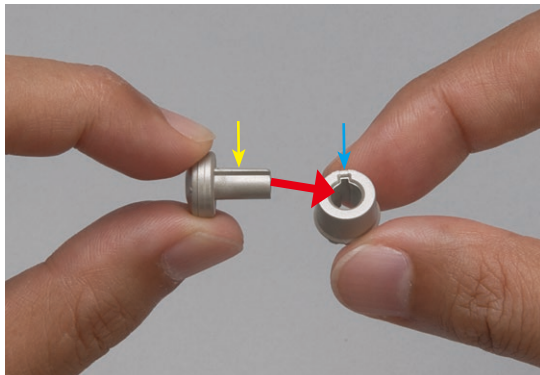
◀MP4/4のポップオフバルブ。

In Focus

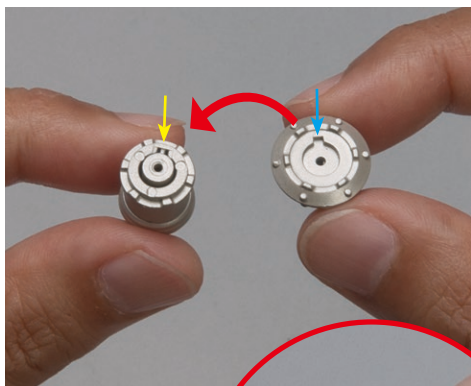


## 1 ポップオフバルブとスロットルボディ(上)を組み合わせる

- ②ポップオフバルブ(中)の凹凸のない側の青矢印で示した凹みと③ポップオフバルブ(前)の黄色い矢印で示した溝を組み合わせる。



- ポップオフバルブ(中)の黄色い矢印で示した突起と、①ポップオフバルブ(後)の青矢印で示した凹みを合わせる。



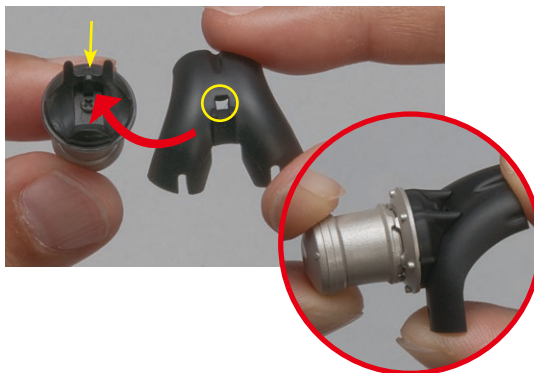
- ポップオフバルブ(中)(前)(後)が組み合わさった状態。

- 組み合わせた3つのパーツが外れないよう押さえながら、黄色い丸で示したビス穴に④ビスNを差し、プラスチックドライバー(00番)で締める。



- ポップオフバルブ(中)(後)の側面の穴の形状が赤丸内の写真のように整っていることを確認する。

- ポップオフバルブの黄色い矢印で示した突起に、⑤スロットルボディ(上)の黄色い丸で示した穴を組み合わせる。



- 各パーツが外れないよう押さえながら裏返し、黄色い丸で示したポップオフバルブ(後)の突起につまようじで瞬間接着剤で少量塗り、1分ほど押さえる。

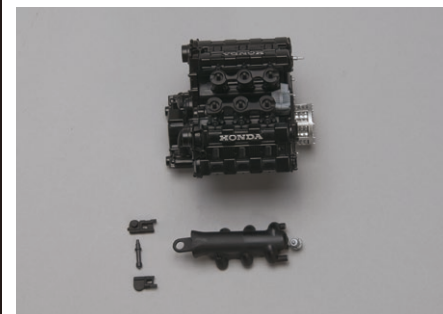


- ポップオフバルブを組み立て、さらにスロットルボディ(上)が取り付けられた。



## 2 ターボチャンバーにスロットルリンク(右)(中)(左)を取り付ける

- 51号で使用したターボチャンバーと49号で提供されたスロットルリンク(右)(中)(左)、53号で組み立てたエンジンブロックを用意する。



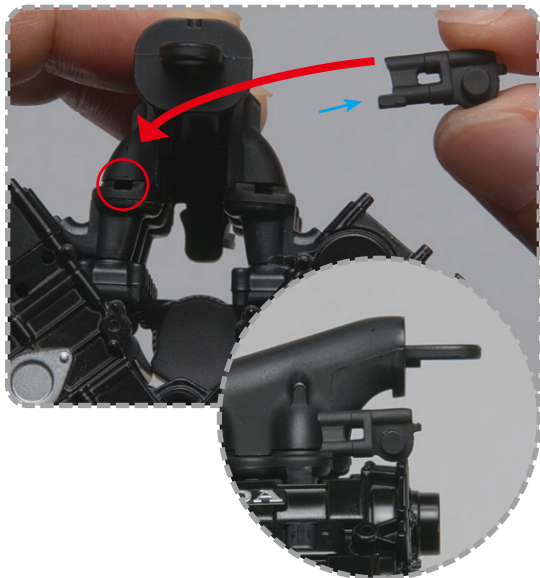
- エンジンブロックに取り付けてあるマニホールドインテーク(下)に、ターボチャンバーを写真のように組み合わせる。



- ぴったり組み合うことを確認する。

《仮組み》

スロットルリンク(右)の青矢印で示した突起を、エンジンブロックの赤丸で示した凹みに差し込み、スロットルリンク(右)とターボチャンバーとの接着面を確認する。



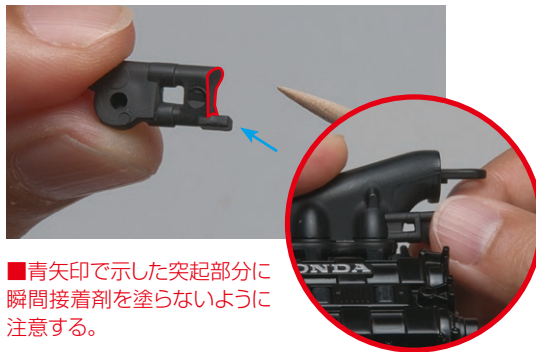
ポイント

ターボチャンバーの取り付けについて

●ターボチャンバーは、後の号でホースなどを取り付けるため、今号では、スロットルリンクをターボチャンバーにのみ接着し、エンジンブロックから取り外せるようにしておく。

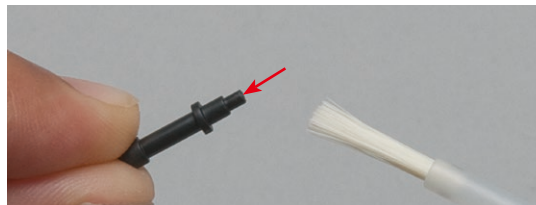


●スロットルリンク(右)の赤枠で示した接着面に、瞬間接着剤をつまようじで少量塗り、仮組みしたように合わせて1分ほど押さえる。接着が確認できたら、エンジンブロックからターボチャンバーを取り外す。

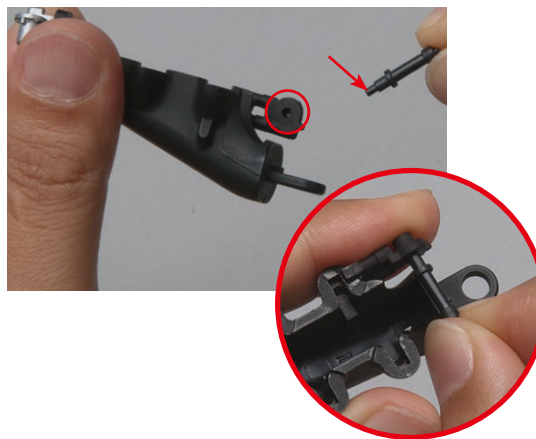


■青矢印で示した突起部分に瞬間接着剤を塗らないように注意する。

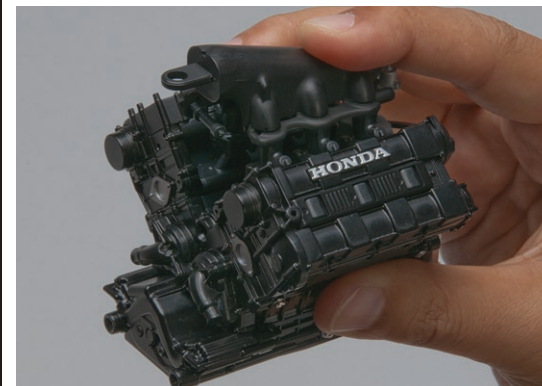
●スロットルリンク(中)の赤矢印で示した先端に、プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗る。



●ターボチャンバーに取り付けたスロットルリンク(右)の赤丸で示した凹みに、スロットルリンク(中)の接着剤を塗った先端を組み合わせ、2~3分押さえる。



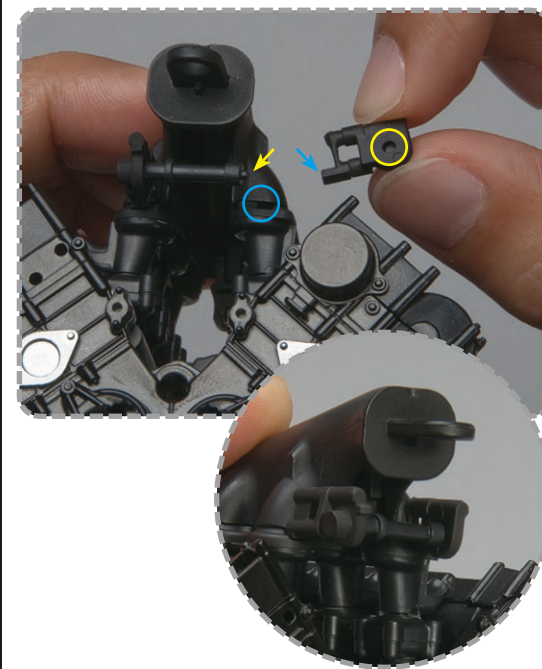
●再びターボチャンバーをエンジンブロックに組み合わせる。



■ぴったり組み合わせることを確認する。

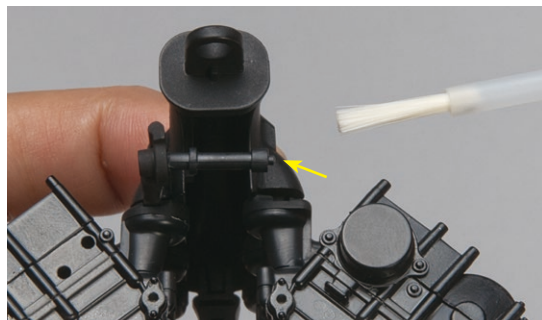
《仮組み》

スロットルリンク(左)の青矢印で示した突起と黄色い丸で示した凹み、エンジンブロックの青丸で示した凹みとスロットルリンク(中)の黄色い矢印で示した先端を、それぞれ同色で組み合わせ、接着面を確認する。





- スロットルリンク(中)の黄色い矢印で示した先端に、プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗る。



- スロットルリンク(左)の赤枠で示した接着面に、瞬間接着剤をつまようじで少量塗り、仮組みしたように合わせて1分ほど押さえる。



- 青矢印で示した突起部分には瞬間接着剤を塗らないように注意する。

- エンジンブロックからターボチャムバーを取り外し、完全に接着するまで1時間ほど置く。



### 3

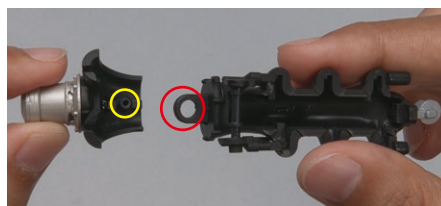
## ターボチャムバーにエアチャムバーオーリングとスロットルボディ(上)(下)を装着する

- ターボチャムバーの黄色い矢印で示した突起に、④エアチャムバーオーリングを組み合わせる。



- エアチャムバーオーリングは、黄色い丸で示した3つの丸い跡がある面をターボチャムバーに組み合わせる。

- ターボチャムバーの赤丸で示した穴に、ポップオフバルブを装着したスロットルボディ(上)の黄色い丸で示した突起を組み合わせる。



- ターボチャムバーとスロットルボディ(上)が外れないように押さえながら、⑥スロットルボディ(下)を組み合わせ、赤丸で示したビス穴に⑦ビスJを差し、プラスチックドライバー(00番)で締める。



- ビスの締めすぎに注意する。

## Check



完成時イメージ▲

- ターボチャムバーは、後の号でエンジンブロックに取り付けられる。

## 今号の完成

ターボチャムバーに、スロットルリンク(右)(中)(左)とスロットルボディ(上)(下)、ポップオフバルブを取り付けた。



## 保管パーツ

今号で使用したエンジンブロックは、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。

